

園のシンボル 遊具に別れ

盛岡市加賀野の岩手大付属幼稚園（土屋直人園長、園児37人）で半世紀にわたって親しまれてきた遊具2台が今月末に撤去される。特徴的な形状の滑り台「プレイスカルプチュア」（遊具彫刻）は安全に遊ばせることが難しくなり、地元の専門業者の協力で3Dデータとして保存。関係者は子どもたちが集った園のシンボルとの別れを惜しみながら、思い出を未来に引き継ぐ。



園のシンボルとして親しまれてきた「プレイスカルプチュア」。子どもたちの育ちを支えてきた

岩手大付属幼稚園の「滑り台」「風車」 撤去し3Dデータで保存



創立50周年を記念して設置された「風車」

半世紀の思い出 未来に

園児から「白い滑り台」と呼ばれているプレイスカルプチュアは、園舎が同大付属小の敷地内にあった時代に岩手大教育学部の教授と学生によって制作され、1961年に設置。72年に現在地に移転した際に運ばれたとみられる。

もうひとつは創立50周年を記念し78年に設置された「風車」。色とりどりの風車が子どもたちの個性豊かな育ちを見守ってきた。毎年業者による点検を受けてきたが、いずれも使用に耐えられないと指摘。修繕や移転も検討したが、夏休みに入るタイミングで撤去を決めた。

データ化は「遊具を何らかの形で残したい」とPTA関係者から相談を受けた、同市西仙北の土地家屋調査士法人みらい測量（浅沼智之代表）が実施。今月、3Dスキャンを用い滑り台を無償で計測した。浅沼代表は「凝ったオブジェのような遊具。測量を通じて、少しでも園児や卒業生の思い出を後世に残せたい」と話す。

同社からデータの提供を受けた土屋園長は「撤去は残念だが、今の子どもたちにとってふさわしい園庭をつくるために決断した」と語り、「データとして残すことができ大変ありがたい」と感謝した。

撤去は28日からの予定。見学についての問い合わせは同園（019・622・4691）へ。

（丹野奈々）